

決して平坦でなかった… 紆余曲折を乗り越え “創立 100 周年！”



今回の元気企業は、明治の創業以来、医薬品を中心に事業を展開し、この 20 年で健康食品、化学品、機能材料などの製造販売を手がけるメーカーとして、年商 10 億円から 50 億円へと大きな飛躍を遂げた「室町ケミカル(株)」です。

2つの世界大戦、そして戦後と激動の時代の中歩んできた 100 年は決して平坦な道ではありませんでした。しかしその都度、経営理念にも掲げている“チャレンジ精神”で困難を乗り越えてきた室町ケミカル(株)の 100 年の歩みとこれからの 100 年に向けた想いについて、副社長の服部英法さんにお伺いしました。

戦争、廃業、そして救い、いろいろあった 100 年



村山製薬(福岡県須恵町)

明治の中頃、福岡県須恵町において、黒田藩医であった田原養仙先生の名薬「正明膏」(別名：貝殻目薬)を譲り受け、個人商店「村山製薬」にて製造販売を始めたのが創業です。その後、大正 6 年に最初の会社を創立し、昭和初期には家庭医薬品の製造メーカーとして朝鮮・台湾と海外へも販路を拡大していましたが、第 2 次世界大戦が勃発、一時は廃業



正明膏(貝殻目薬)
「須恵町立歴史民族資料館収蔵」

せざるを得ませんでした。戦後、再び事業にチャレンジし、新たな事業として医薬品の他にヨーグルト等の食品製造部門も始めたのですが、ところが今度は、甘味料チクロの有害説がアメリカで発表され、使用禁止になってしまったのです。順調だった食品部門は、製品を作ることができなくなり閉鎖、社長は廃業を考えたそうです。しかし、それを同級生のムロマチテクノス(株)(旧室町化学工業(株))の社長に打ち明けたところ、同社の資本と製品の一部を譲り受けることになり、昭和 46 年に「ムロマチグループ」の一員として再スタートを切ることになりました。そして平成 8 年、福岡市の都市計画により工場移転を迫られることになり、大牟田市に移転したのです。社名も現在の「室町ケミカル(株)」に改称し、工場増設も叶い、順調に業績を伸ばすことができました。

この 20 年で年商 10 億から 50 億へ

うまく時代の“波”に乗れたのだと思います。平成 17 年、世間は空前の健康ブーム。ヨーグルトを作っていた頃の社名を復活させ「天洋社薬品(株)」を設立し、健康食品事業を始めました。携帯しやすく、水がなくても摂取できるよう、ゼリーという形状に



ウコンゼリーのテレビ CM

こだわりの、「ウコンゼリー」をはじめペット用ゼリーなども販売する他、OEM 受託製造も行い、年商 20 億円を売り上げることができるようになりました。

もうひとつの“波”は「国の医療費対策」です。国民医療費は年々増加し、今や 40 兆円を越え国の重要な課題となっています。その対策としては、国が価格の安いジェネリック医薬品(後発医薬品)の使用を推進したため、一気にジェネリック医薬品の需要が加速したのです。それにより創業当時から行ってきた医薬品原薬の製造、

輸入販売が伸び、年商 20 億円となりました。健康食品・医薬品いずれも、長年培ってきた技術とノウハウが時代に合わせた“チャレンジ”により大きく飛躍することができ、大変嬉しく思います。

また平成 23 年には、ディーゼル排ガス処理用の尿素水工場を新設し、“AdBlue®”の認証を取得。業務用アロンアルファの販売などを合わせたこれら化学品事業がもうひとつの柱となり、平成 26 年には親会社であったムロマチテクノス(株)を吸収合併し、“新生”室町ケミカルグループをスタートすることができました。

“抱負” これからの 100 年に向けて

医薬品、化学品及び健康食品メーカーとして、「お客様第一主義」を基本にお客様ニーズを満足させる開発力と技術力、さらに生産力にも磨きをかけるとともに、各事業分野での新規テーマに積極的にチャレンジし、日本だけでなくアジアにも積極的に進出していきたいですね。また、大牟田市の企業として、大牟田市動物園内に整備予定の「絵本ギャラリー」への寄付金贈呈や、各地区の「こども食堂」に食育の一環として当社の健康食品「青汁ゼリー」の提供を行うなど、今後とも地域貢献活動を続けていきたいと思ひます。

会社概要

室町ケミカル(株)

住所：福岡県大牟田市新勝立町

1 丁目 38 番 5

TEL：0944-41-2131

